

【研究ノート】

## イギリス地域博物館の展望： 「地域のルネッサンス」計画

A new vision for regional museums,  
UK : the Renaissance project.

久保内 加菜\*

Kana KUBOUCHI

### はじめに

2001年10月、イギリス政府の外郭団体で、リソースと呼ばれる博物館・文書館・図書館会議 (Resource, The Council for Museums, Archives and Libraries) による報告書『地域のルネッサンス：イングランドの博物館の新しい展望』<sup>(1)</sup> が刊行された。対象はイングランドに限られるものの、「ルネッサンス」という題名の通り、地域博物館と中央政府および地方自治体との関係を大きく仕切り直すシステムが提示されたことになる。

イギリス政府による非国立館に対する体系的な助成は初めて、という快挙である反面、イングランドの地域ごとに「卓越したセンター (centres of excellence)」である「ハブ (hub)」を選び、新しいシステムの拠点として機能させるというアイデアは議論を呼んだ。実際に計画の導入にあたり、博物館関係者やリソース内部でも混乱が見られた。

本稿では、一連のルネッサンス計画の概要と導入の経緯をまとめ、新しい地域博物館のシステムの構成と問題点を整理したい。また、同じくりソースが実施する博物館登録制度を始め、イギリスの博物館を支える制度は政府や自治体、イギリス博物館協会 (Museums Association, UK, 略称はMA) などによる重層的な構造になっている。ルネッサンス計画と、これらの関連する組織や事業などとの関係も確認しておきたい。

日本では2003年6月に公立館の設置基準がおよそ30年ぶりに緩和されたが、公立館の設置・運営や私立館・他機関との協力関係、そして地域の博物館が担う卓越性の内容は、イギリス、日本ともに過渡期にあると言える。日本の問題は本稿が扱う内容ではないが、イギリス本国でもいまだ評価の定まらない、新しい博物館構想を紹介することは広角的に、日本の地域博物館

\* 山脇学園短期大学

---

のあり方を問う議論にも示唆を与えると考えられる。

## 1. 計画策定の背景と経緯

### (1) ブレア政権下の行政改革

ルネッサンス計画が生まれた背景には1997年に誕生したブレア労働党内閣の行政改革により、新たな地域のシステムが必要とされたことがまず挙げられる。

第一に、博物館の関係省庁の改編がある。1997年に当時の国家遺産省 (Department of National Heritage, 略称はDNH) が、文化・メディア・スポーツ省 (Department of Culture, Media and Sports, 略称はDCMS) に改編され、遺産保護というより文化創造というスタンスが明確になり、文化に関する教育・学習の要素も強調されるようになった。産業界、経済界などの他分野との連携にも積極的で、関係機関となるイングランド・アーツ・カウンシル (Arts Council of England, 略称はACE) が開始した創造性協力基金 (the Creative Partnerships Fund) なども注目される。

そして1931年に創設され、DNHの傘下にあった博物館・美術館委員会 (Museums and Galleries Commission, 略称はMGC) は、DCMSの創設にともない、2000年にリソースとして改編された。博物館に限らず図書館と文書館部門を包括し、総合的な文化施設関連の施策を行うこととなった。MGCから引き継いだ主な事業には博物館登録制度 (Registrarion Scheme) や博物館指定制度 (Designation Scheme) などがあるが、今回のルネッサンス計画が新しい体制下で取り組む初めての大きな事業となる。

第二に、地域主義 (regionalism) と呼ばれる理念がある。特に地方分権 (devolution) は、ブレア政権の主要な政治目標であり、1998年にスコットランドとウェールズに地方議会が、イングランドでも1999年に大ロンドン市庁 (GLA) が設置された。一連の地域改革は、委譲される権限に限界はあるが、1980年代以来のサッチャー保守党政権以来の中央集権的な方針とは一線を画している。文化行政への影響も大きく、地域文化組合 (regional cultural consortiums, 略称はRCCs) などの機能も注目される<sup>(2)</sup>。また労働党の選挙公約 (マニフェスト) に顕著なように客観的な行政評価制度の確立が急がれ、代表的なものに「最高の価値 (Best Value)」制度の導入もある。

地域博物館に直接関連する組織としては、地域博物館協議会 (Area Museum Councils, 略称はAMs) の動向が注目される。現在リソースの傘下にあるAMsは、1959年以来、国内10カ所に順次設置された専門機関で、非国立館に対する助成や助言を行ってきた。DNHからDCMSの改編にともない、イングランド内に2001年から順次、9つの地域機関 (Regional Agencies, 略称はRAs) が設置された。博物館と文書館、図書館部門を管轄し、将来的にAMsに替わる機関としての機能が期待され、ルネッサンス計画でも地域博物館とリソースを仲介する役割が求めら

---

れることになった。

## (2) 地域博物館の問題点

これまでイギリスでは、公立館をはじめとする地域博物館の条件整備は、自治体や関係機関の裁量に任されてきた。その法的根拠は1964年の公共図書館・博物館法 (Public Libraries and Museums Act) と1972年の地方自治法 (Local Government Act) にさかのぼる。前者は、博物館の条件整備に対し、自治体による補助金交付を可能にした。後者はイングランドとウェールズに限られるが、州や行政区の施策を公立館が部分的に担うとした。一方で、市や行政教区などの権限は明記されていない。その他、教育や観光政策なども含め、様々なレベルの法制度が適用されているが、小規模館への助成など、地域の事情に合わせた支援が可能である一方で地域格差の拡大が指摘され、自治体による公立館支援制度を体系化する必要は1970年代から課題とされてきた<sup>(3)</sup>。

さらに慢性的な不況もあり、地域博物館をめぐる環境は厳しく、1970年代以来、小規模な私立館 (independent museums) が急増したものの、近年は全般的に経営難や質の低下に対する危機意識が高い。サッチャー政権以来の文教施設の予算削減や統廃合、また1988年の教育改革法によるナショナル・カリキュラムの導入や地方教育局 (LEA) の弱体化などの影響も大きく、公立館に限らず、地域の博物館を支援するための支援体制づくりや、特に資料管理や教育面の博物館サービスの基準化も課題となっていた<sup>(4)</sup>。

ルネッサンス報告書の第1章でも、利用者のアクセス増大が地域博物館の重要な課題として挙げられている。イギリスでは年間7千7百万人の博物館来館者があるが、ロンドンでは増加傾向にあるのに、その他の地域は減少しているという。地域博物館の半数以上の年間来館者数は1万人以下であり、特定の地域住民との交流を「地域の物語」として誇示する一部の博物館の開き直ったような姿勢も問題視されている。ルネッサンス報告書では、他の地域から多くの来館者を集められる地域博物館こそが「真の地域博物館」として重点的に強化すべきだと続けている。

## (3) 計画策定の経緯

これらを背景に、2000年末より、リソースによってルネッサンス計画の作成が進められた。当初は主要な公立館の強化が目的であったが、最終的に地域博物館全体のシステムを再編する革新的なプロジェクトが提示されることになった。

保守党のDCMS担当大臣のもと、スチュワート・デーヴィス (Stuart Davies) を委員長、マシュー・エヴァンズ (Matthew Evans) を議長とする特別委員会が結成された。委員には当時のナショナル・ギャラリー館長で、現在は辣腕の大英博物館館長として知られるニール・マク

レガー (Neil MacGregor) や、テート・モダンの積極的な経営拡張が注目されたニコラス・セロータ (Nicholas Serota)、MA会長など8名である。オブザーバーにはDCMSとリソースの幹部職員が名を連ね、その他各地区ごとに、合わせて400名近くの博物館や博物館サービスのスタッフが協力者として挙げられている。

できるだけ多様な博物館、機関を巻き込む「連携 (joined-up)」の姿勢が強調され、実際に綿密な調査や会合が重ねられたという。後述するハブ組織の構想や予算請求額などが2001年の公表前から注目されたが、結果的に実施段階で改訂が重ねられた。

## 2. 報告書の構成

### (1) 全体の構成

ルネッサンス報告書は、160頁に及ぶ分厚い構成となった。目次は<図表1>の通りである。博物館が目標とする価値について再確認をした上で、現在の地域博物館の成果と問題点を分析し、地域の新しい枠組み (framework) を提示するものとなっている。

### (2) 地域博物館の目標

現在の博物館活動や関連事業の豊富な事例を列挙しながら、あるべき地域博物館の目標として、<図表2>の通り5項目が挙げられた。

特に教育は大きな目標である。選挙公約の筆頭に教育改革を掲げたことで知られるブレア政権の影響も大きい。サッチャー政権下の1988年教育改革法では、全国で画一的なナショナル・カリキュラムが導入されたが、労働党政府は基本的に1988年法の理念を踏襲し、教育水準の向上のための効率化をはかる方針を示した。

ルネッサンス報告書では、具体

目次／はじめに／実施概要	5. 成功のための新しい枠組み (利用者志向の地域のハブ、ハブの機能と責任)
1. 本書の目的: イングランドの主要な博物館	6. 新しい枠組みの構築 (ハブの構成／選出、組織管理、統合と改革、実施)
2. 博物館をとりまく状況 (登録博物館・地域主義・資金調達)	7. 予算 (ハブの経済効果、指定博物館申請基金、地域期間の強化、向こう2年間の予算、資金源)
3. 博物館がもたらしうるもの (教育・学習、アクセス、経済の活性化、収蔵品、サービスの卓越性と質、組織の合理化、評価)	8. 政府への提案 本書の手法／凡例／参考文献／用語集
4. 諸問題の分析	

図表1 リソース (2001) 『地域のルネッサンス：イングランドにおける博物館の新しい展望』目次

- 学習・教育のための重要な資源および擁護者に
- アクセスと参加の推進: 社会的包括と文化的多様化の奨励 (地域コミュニティの中心、公共の議論の場としての役割)
- 地域の経済的な再生に貢献
- 国内の物質文化の収集・管理・解説、知的興奮や創造性を高めるための利用
- 中核となるサービス提供において、卓越性と良質さを保証

図表2 博物館の5つの目標  
Resource (2001), *Renaissance in the Regions*, p21より

的には、学習・教育資源へのアクセスの向上、総合・統合的なサービス、教員の博物館利用方法の改善、学習センターとしての博物館、学校教室内の学習への資料提供などがある。その他にICTなども活用したアクセスや、ブレア政権が掲げる「社会的包括」の推進も大きな目標である<sup>(5)</sup>。

その他の関連事業として、教育技術省 (DfES) がナショナル・カリキュラムに準拠した博物館・美術館教育プログラム (Museums and Galleries Education Programme. 通称はMGEP) を1999年から実施している。第2期MGEPは、DfESカリキュラム局からの100万ポンドを投じてイングランド内の117事業に助成を行っており、現代美術のワークショップを中心に16美術館で実施されるengageのプロジェクト (ArtFULL) とともに、ルネッサンス計画との協力関係が見込まれている。イングランド内ではengageやGEM (Group for Education in Museums) などの教育関係の任意団体も積極的な取り組みを続けており、これらの団体との協力関係も必要である。

### (3) 他の制度・機関との関係

ルネッサンス報告書で連携が重視される政府機関による事業は、大きく2つある。まず1988年に当時のMGCにより導入された博物館登録制度である<sup>(6)</sup>。設置から公共サービスにいたる博物館活動を網羅する「最低限の基準 (minimum standards)」が示された。現在はリソースに引き継がれ、2千館程度と推定されるイギリス全土の博物館のうち、1,860館もが参加する制度に成長した。リソースの関連組織である、博物館ドキュメンテーション協会 (mda) による資料管理の標準 (スペクトラム) も、登録制度の必要条件であり、広く導入されている。もう1つには、リソースが行う博物館指定計画 (Designation Scheme) がある。1997年から2年間で、62の地域博物館の収蔵品が、国内外で重要な価値をもつとして「指定」された。1999年には指定博物館申請基金 (the Designated Museums Challenge Fund) が創設され、指定収蔵品に対する助成として向こう3年間で1千5百ポンドが充てられた。

その他に、1994年のメジャー保守党政権下で開始された国家遺産省 (DNH) の遺産宝くじ基金 (Heritage Lottery Fund) による事業助成<sup>(7)</sup> などがあるが、これらの中央政府による地域博物館への助成の成果は、報告書のなかで高く評価され、政府の継続的な助成制度が地域博物館の機能の強化のために最重要であるとされている。

## 3. ハブ組織の構成と機能

### (1) ハブの構成

ルネッサンス計画の鍵を握るとされるのは、地域の「ハブ」という概念である。一般的に「ハブ」は中心 (センター) や結節点の意味だが、現代では複数のコンピューターをつなぐた

めの装置を指すことば等として定着している。計画ではこれまで馴染みのない「ハブ」ということばが用いられ、画期的な地域博物館システムが提言されたことになる。

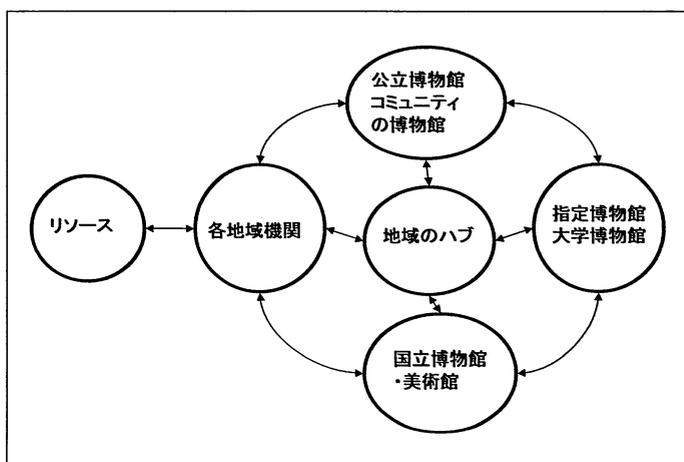
報告書における地域のハブは、単独の博物館サービスを筆頭とし、最大で3つの協力組織を加えて構成される。あるいは4つの同等の施設・団体の協力組織としてもよい。その他に指定博物館・大学博物館、国立館、小規模館を含めた公立館などの地域博物館が取り囲み、RAsなどを通してリソースと関わる<図表3>。

ただし、既存の博物館組織・サービスがハブとしての機能を担うもので、ハブ組織としての施設や事務局は新設されない。そのためハブ組織の業務は、もちろん専従スタッフが必要であるが、原則的に当該の博物館・機関職員が担当する。ハブ組織の責任者は、筆頭組織の館長などの最高責任者が、職務の一環として兼務する。

## (2) ハブの機能

ハブは「卓越したセンター」としての機能を担うとされ、リソースから配分される予算を自館の活動に充てるとともに、他の地域博物館に対してプロジェクトへの参加などを通して恩恵を与える、極めて権限の大きな役割である。

筆頭組織の選定基準としては5項目が示された<図表4>。原則的にイングランドの大都市を基盤とする組織とされるが、各項目ともに数値などの詳細は示されていない。一方で指定博物館および大学博物館がハブ組織としてふさわしいとされており、国立館以外の比較的大きな規模で、活動実績のある博物館が想定されている。地域を統率する実行力が問われるが、各地域の現状に見合った役割の付与と、潜在能力の開発、そし



図表3 地域における博物館の構成図  
Resource (2001), *Renaissance in the Regions*, p100より

### ◎位置づけ status

博物館登録の格付け、指定収蔵品の有無など

### ◎立地 location

他の登録館に対する地理的条件、集客力など

### ◎条件整備 infrastructure

スタッフの適性、収蔵品の規模、収容能力など

### ◎業務の遂行能力と責任 capacity and commitment

資金源、来館者数、スタッフ養成、統率能力など

### ◎サービスの保証と認知 endorsement and recognition

優れた実践の基準の理解(MDAのスペクトラムなど)

図表4 ハブ組織5つの選定基準

Resource (2001), *Renaissance in the Regions*, p117より

て計画書の作成を含めて実行能力が求められる。

### (3) システム導入の課題

こうしたハブ組織を中心とする新しいシステムについて、報告書で挙げられた主な問題点には、AMCsの再編がある。RAsの役割強化にともない、AMCsはより博物館に専門的な助言や指導を行う機関として特化する必要がある。

そして、公的資金投入の必要が強調された。地域博物館に対して中央政府から直接、継続的に助成を受けることが、新しいシステムの成否の鍵を握るとされている。前述の博物館の5つの目標に対応して予算請求がなされている。

## 4. 計画導入後の経緯と今後の課題

### (1) ハブの選出

ルネッサンス計画は、2002年末に各地域のハブ組織の正式公表にいたり、2006年までを第1期として進行中である<sup>(8)</sup>。しかし、導入後の経緯は順調ではない。

ハブの選出は、各地域から案を出してもらい、自治体や国立館の代表や、DCMS、MAなどのメンバーから構成される特別委員会で最終的な検討を行った。報告書では、原則的に1つの博物館サービスに3つまでの協力組織を加える、というリソースの案が示されたが、地域によっては4つ以上の組織を候補として提出しており、調整が難航した。

また、報告書作成当初は政府への巨額の予算請求が注目されたが、2002年10月にDCMSが公表した予算配分は1億6千7百万ポンドの請求額に対して7千万ポンドにとどまった。DCMSの特別予算5億2千万ポンドのうち、半分近くがACEに流れ、また1999年から段階的に導入された国立館の入館料無料制度への資金補填などがかさんだためと見られているが、結果的にリソースの指導力が疑問視されることになり、リソースの最高責任者と委員長が一時的に不在になるなど、内部の混乱も露呈した<sup>(9)</sup>。

いずれにしても向こう4年間の資金7千万ポンドを得て、リソースは9地域のうち、3つを正式の第1期ハブとして選び、2003-6年間の予算のうち70%を重点的に配分した<図表5>。他の30%は、2004年からのプログラム実施に充

◎第1期ハブ	◎その他のハブ
○北東(3)	○ヨーク州(4)
タイン・アンド・ウェア博物館群	シェフィールド美術館・博物館群トラスト
○西ミッドランド(4)	○北西(4)
バーミンガム博物館・美術館群	マンチェスター市美術館群
○南西(4)	○東ミッドランド(4)
プリストル市博物館・美術館	レスター市博物館サービス
	○東イングランド(3)
	ノーフォーク博物館・考古学サービス
	○ロンドン(3)
	ロンドン博物館
	○南東(3)
	ハンブシャー州博物館サービス

図表5 地域の筆頭ハブ一覧 \*( )内は協力機関数  
Resource (2003), *Renaissance News*, issue 1, Oct. より

てられる。準じて2004年4月から適用される第1、2期ハブの基本財源としては、40%は均等配分、その他60%は各地域の人口比に合わせて配分されることになった。その他に、DCMSから2006年末には3千万ポンドが追加投入される見込みとなり、教育計画費として1千2百ポンド、特別基金として1千ポンド強を獲得しており、その後の予算配分もリソースの課題である。

- 学校対象の総合サービス推進
- 広範囲のコミュニティへのはたらきかけ
- 収蔵品の常設展示更新プログラム
- 収蔵品の維持管理、運営、保存の強化  
→収蔵品指定挑戦基金プロジェクト(2004-6年間)
- 知識・情報へのアクセス向上
- 労働力の開発 →リソース労働力開発計画(2005-6年間)
- 各種基準の達成と超越  
→収蔵品管理ベンチマーク、あらゆる人々の学習推進など
- 質の高いサービスのための効率的・適切な管理運営  
→営業活動、観客開拓、ICTなど

図表6 第1期ハブ8つの優先活動分野  
Resource (2003), *Renaissance News*, issue 1, Oct. より

各ハブではリソースの示した8つの優先順位に基づき<図表6>、地域の実情に合わせて活動を行うこととなる。それぞれの地域で行動計画や評価（ベンチマーク）などを作成する必要があるが、第1期ハブの成果が期待される<sup>(10)</sup>。

## (2) 計画の課題：「卓越したセンター」をめぐる

ルネッサンス計画は、イングランドに限られるものの、地域博物館に対する中央政府による体系的な支援を行う点、またハブ組織という地域の活動拠点の創出という意味で、イギリス全体から見ても歴史的な快挙であると言える。その他、現在のリソースが管轄する既存の制度・組織と連動させることにより、各地域の自由裁量にほぼ委ねられていた博物館の位置づけや支援制度の体系化の進展が期待される。

しかし、ルネッサンス報告書を見る限り、地域博物館、特にハブ組織について、目標とする活動項目は網羅されているものの、一貫した評価基準の詳細は示されておらず、特にハブ組織の選出や機能をめぐって現場で混乱が生じたことは否めない。ルネッサンス計画がまさに地域博物館の救世主となるのか、指定博物館計画などのプロジェクトの1つに過ぎないのか、の評価は第1期ハブが試金石となると考えられるが、ハブがいかに関リーダーシップを発揮できるのか、そして国立館と比べて地域博物館の卓越性はどこにあるのか、また基準はどのレベルまで策定できるのか、検討が続けられる必要があるだろう。

一方で、スコットランド博物館協会 (Scottish Museums Council. 略称はSMC) が2002年に作成した行動計画<sup>(11)</sup>は、スコットランド行政当局により予算増が認められず厳しい結果になった<sup>(12)</sup>。ルネッサンス計画がスコットランドなどの他地方に与えた影響、またイングランド内の実質的な変化については、機を改めて論じたい。

---

## 【注・参考文献】

- (1) Resource 2001 *'Renaissance in the Region: a new vision for England's museums.'* リソースのホームページで入手可能。URL <http://www.culture.gov.uk/pdf/rcleaflet.pdf> (2003年12月検索)。
  - (2) Department of Culture, Media and Sports 1999 *'Regional Cultural Consortiums'* DCMS, London.
  - (3) Department of Education and Science 1973 *'The Wright Report: Provincial Museums and Galleries'* HMSO, London. Museums & Galleries Commission 1978 *'The Drew Report: Framework for a System for Museums'* HMSO, London など。
  - (4) Audit Commission 1991 *'The Road to Wigan Pier? Managing Local Authority Museums and Art Galleries'* HMSO, London. Museums & Galleries Commission 1991 *'Local Authorities and Museums: Report by a Working Party 1991'* HMSO, London. など。
  - (5) 「社会的包括」については以下を参照。島村ウィルコックス有香 2003「博物館におけるソーシャル・インクルージョン（社会的包括）活動とその定義」博物館学雑誌第28巻第2号 全日本博物館学会 pp. 53-66.
  - (6) 博物館基準研究会編・発行 1999『博物館基準に関する基礎研究：イギリスにおける博物館登録制度』を参照。
  - (7) 布施美穂 1997「イギリスにおける宝くじ助成金による博物館支援」博物館学雑誌第23巻第1号 全日本博物館学会 pp. 37-50. を参照。布施は、同基金が公共投資の性格をもち、審査基準が展示およびマーケット拡大を重視していると指摘している。
  - (8) Resource 2003 "Renaissance News" Issue 1.
  - (9) Heal S. 2003 *'Resource an organisation in crisis after Southall's shock resignation'* *Museums Journal* June 2003, p.5 など参照。
  - (10) 現時点の成果は以下のニューズレターを参照。Resource 2003 "Renaissance News" Issue 2. その他リソースのホームページで最新情報が紹介されるとされる。
  - (11) Scottish Museums Council 2002 *'From National Audit to National Framework: SMC's response to the Scottish Executive Action Plan Consultation.'* SMCのホームページで入手可能。  
URL [http://www.scottishmuseums.org.uk/information\\_services/](http://www.scottishmuseums.org.uk/information_services/) (2003年12月検索)
  - (12) McCord S. 2003 "The "inaction plan"" *Museums Journal* oct. 2003, pp. 14-15. など参照。
- 付記：2004年2月よりリソースが以下の通り改称された。博物館・図書館・文書館委員会 (The Museums, Libraries and Archives Council 略称はMLA)